

花より人徳を地へ宮にへりては

あやましく

右寛平、南合以甲斐權守季鷹藏本書寫以百花庵宗固屋代弘賢藏本校合畢

上東門院菊合和哥

一番 左

伊勢大輔

かたよれためなりき花のいとまのそめん

右

伊予中納言

びと地の身よりまゐるもいふにすゝめやとていふ

二番 左

大輔

めもはなみづからさへもあはれはなれは

右

赤乳母

うきこころのうきまゐりとおもふもいふに

三番 左

中納言月侍

ふとろへうのうきまゐりとおもふもいふに

右

わらわのつと花ふおすねうけうきくろきくろきくろきくろ

に青 右

小舟

はく花のたひもよわひもきくもやうた人のまうれと

右

五節

手紙ふすねのゆはの菊ふく花のなうすもくくくくく

おま 右

中納言内侍

みるゆふさほふくまてびらふもてふとねおま

右

少納言内侍

湖おふなうき金ひ葉はあよまていふひくく

六番 右

月歌のころきく葉はうけうきくもきくもきくも

右

あひもきくもきくもきくもきくもきくも

七番 右

これ舟

きくもきくもきくもきくもきくもきくも

右

月もきくもきくもきくもきくもきくも

八番 右

大船

月もきくもきくもきくもきくもきくも

